



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## サンホセ日本人学校における現地理解教育とグローバル人材育成の取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸松, 浩一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/00173874">http://hdl.handle.net/2309/00173874</a>

# サンホセ日本人学校における現地理解教育と グローバル人材育成の取り組み

前在コスタリカ日本国大使館附属サンホセ日本人学校 教諭  
愛知県一宮市立北方中学校 教諭 戸松 浩一

キーワード：在外教育施設、コスタリカ、現地理解教育、グローバル人材

## 1. はじめに

コスタリカ共和国の首都サンホセにあるサンホセ日本人学校は児童生徒数12名の小規模校である。43年前、コスタリカに住む日本人の方たちが、「日本と同じ教育を子どもたちに受けさせたい」という思いから、多くの困難を乗り越えて建設された学校である。これまで全国各地から派遣された諸先輩方の思いがつながり現在に至っている。

## 2. サンホセ日本人学校について

### (1) 特徴

本校の児童生徒の特徴は、現地で生まれ育ち、卒業後も現地校に進学する子どもたちの割合が高いことである。彼らの多くは日本人とコスタリカ人の間に生まれた子である。小学部入学時には日本語が全く話せない児童も少なくない。それでも本校に通わせるのは「礼儀正しく時間が守れるしっかりした子に育てほしい」「高い水準の教育を受けさせたい」という親の願いである。しかし、コスタリカに移住する家族数の減少、日本企業や官公庁から派遣される方の単身赴任の増加、教育省から学校としての認可を受けていないこと、スペイン語や英会話力が現地校に比べ身につけにくいことなどから、本校に入学する児童生徒数は減少している。そのため、学校を存続させる方策を学校運営委員会とともに考え、実行している。学校行事を土曜日に開催したり、体験入学希望児童生徒を積極的に受け入れたりして、本校の教育活動の様子や児童生徒の様子を見てもらう機会を増やしている。

### (2) 学校行事

- ・スクールバスの襲撃や銃を携帯した不審者の侵入などの避難訓練を年4回実施。
- ・日本の年中行事を年4回実施。・現地校との交流授業を年4回実施。

### (3) 特色ある教育活動

- ・子どもたちの進路実現と英会話力向上のための時間として本年度から週1日7時間目を新設。
- ・将来の進路に合わせた選択語学（日本語・スペイン語・英語）の時間を週2時間実施。
- ・全派遣教員による研究授業、全校道徳を毎年実施。

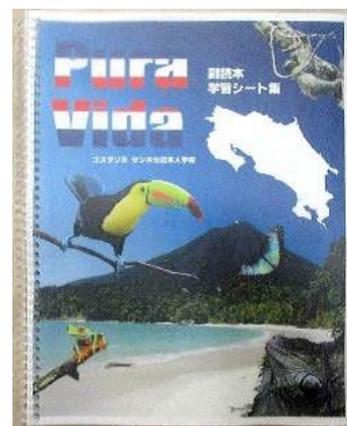
## 3. 成果と課題

本校には現地で生まれ育ち、卒業後もコスタリカで生活する児童生徒が多いが、この国の歴史や社会の仕組みをほとんど知らないのが現状である。彼らの卒業後の進路選択や将来を考えると憂慮すべきことである。また、本校の教育理念である「グローバル人材の育成」という視点からみても日本とコスタリカ、世界の状況を学び、比較して、よりよい未来について考えることは重要なことである。そこで、3年間の派遣で2つのことについて研究を進めた。1点目は、学習に効果的な社会科の副読本・学習シート集づくりである。本校独自で作成されて

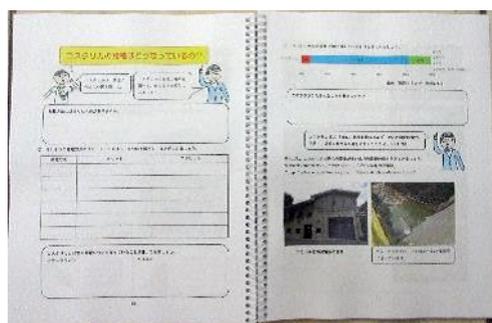
きた資料集の内容を大幅に見直し、改編・改訂し、学習指導要領の内容に即したものを目指すものである。そうすることで「コスタリカの社会の仕組みや人々の工夫」を学びながら学習指導要領の内容を学習でき、かつ現地理解教育を進められると考えた。2点目はコスタリカについて効果的に学ぶ学習形態の工夫である。コスタリカの特長があらわれ、かつ、日本との比較がしやすい分野を中心に学習を進めた。総合的な学習の時間や社会科の授業を中心に、日本や世界と比較することで、より多面的・多角的に考察できる児童生徒を育てられると考えた。また、訪問授業や施設訪問を積極的に行い、専門家や現地の人から直接触れて学ぶことが効果的であると考えた。

### (1) 社会科副読本・ワークシート集の編纂

児童生徒の多くがコスタリカの地理や歴史、自然等を学ぶ機会が少なく、自国について知らないことが多い。また、日本から来た児童生徒にとってコスタリカについて学ぶことは、多面的に物事を考察するうえで大切であるが、その機会に乏しい。そこで、通常为社会科や理科、総合的な学習の時間に、気軽に活用でき、コスタリカについて楽しく学べる「副読本・学習シート集」を作成し活用することが、本校児童生徒の現地理解、日本とコスタリカを比較し考察する力、世界的視野で物事を考える力を有効に高める手段であると考えた。従来の資料集との違いは、副読本化・学習シート化することである。考えたことや調べたことを記入できるようにすることで、児童生徒がコスタリカ社会により関わりやすくなると考えた。同時に、教師にとっても指導しやすいものを目指した。毎年のように教員が入れ替わる日本人学校において系統的に指導することは難しい。そこで、通常の授業で扱え、日本の学習指導要領と関連付けることで、通常为社会科・理科の授業において、日本の学習と並行して短時間に学習できるものを目指した。膨大な時間と先生方の努力があり「副読本・学習シート集 Pura Vida」が完成した。



完成した、副読本・学習シート集「Pura Vida」(表紙)



収録内容の一部

### (2) コスタリカについて効果的に学ぶ学習の実践

現地理解を進め多角的に物事を考える力を高めるためにさまざまな学習の機会を設けて実践を行った。特にコスタリカの特長である、「発電」「平和」「生物多様性とエコツーリズム」に焦点を当てた。「発電」においては国内電力の約95%を自然エネルギー(水力含む)でまかなっており、火力発電に依存する日本と対極に位置するといっても過言ではない。また、コスタリカは軍隊放棄し、教育の予算を充実させた国であり中米諸国の中でも比較的治安がよく就労率が高い。その結果、多くの外国人旅行客が訪れる国となった。平和という側面では日本との共通点が見られる点も重要である。さらにコスタリカは「生き物の宝箱」と呼ばれ、単位面積当たりの生物種数は世界で最も多く、自然保護を生かしたエコツーリズム発祥の地の一つでもある。これら3点を中心にしてコスタリカのよさを学ぶとともに、日本や世界全体との共通点や相違点を考えられるようにした。また、実際に施設訪問をし、働く人と関わることも重視した。



コスタリカの自然を利用した発電方法と、世界の主な国の発電、各発電方法のメリットやデメリットを調べ、未来の日本の発電について考える生徒



コスタリカ国旗、国章に描かれている色やデザイン、国家の歌詞からコスタリカのよさを発見する児童生徒



生物多様性保全プロジェクトを進めるJICA 専門家から環境保全の大切さを学ぶ児童生徒



コスタリカで人権問題に取り組む国際連合の職員による訪問授業



大使館・国連平和大学に協力依頼し実現した学習会



平和への願いを込めた折り鶴。大使館を通じ、広島・長崎へ贈られた。

「コスタリカについて学ぶ」という発想で学習を進めた3年間であった。海外で生まれ育った子どもたちにとって「何のために日本について学ぶのか」という根本的な疑問に答えることで学ぶ価値を見出すことができる。コスタリカと日本、2つの国の共通点や相違点を比較することで、多面的・多角的なものの見方、考え方が育ち、社会の出来事を世界的な視野で考えることができるようになっていった。この積み重ねがグローバル人材の要素の一つである「論理的に説明する力」を高めることにつながると信じている。現在も本校には日本語を母語としない児童生徒が多く通っている。今後、資料集・学習シート集「Pura Vida」が彼らの学びをさらに広げ深めていくことを祈るばかりである。

#### 4. おわりに

この派遣の収穫は3点挙げられる。1点目は理想とする子ども像、学校像が明確になったことである。お互いのことを受け入れられる人間関係、飾らずに自分らしくいられる学校。目指すべき姿がここにはあった。2点目はグローバル人材に必要な要素が明確になったことである。「持続可能な社会の実現」に向けて、考え行動できる人材の育成は、今後の学校教育において大きな目標となる。3点目はこれまでの自分の教員として、人としてのあり方を見直すことができたことである。このような素晴らしい時間を与えてくださった皆様に心から感謝している。